

A black and white illustration of an owl perched on a tree branch, reading an open book. The owl is facing left, and the book is open in front of it. The tree has a textured trunk and a leafy canopy. A small, stylized insect is flying near the owl's head. The entire scene is enclosed in a simple rectangular border.

[illegible]

講演会

女性之美
男性之美

講師 中川真貴さん

- * *
- * *
- * *

またギリシャ神話の神々やヴィーナスをはじめとする美しく麗しい女神たちも描かれるようになります。ルネサンスまでの中世の時代は、女性の裸体像を描くことは厳禁でした。しかしイタリアでは、



神話の中の神々であるならば、女神として彼らの裸体像を描写することが許されるようになりました。世界史の教科書にも出てくるボッティチエッリの名作「ヴィーナスの誕生」はこの頃に描かれたものです。

今日では裸体像を見ることも描くことも自由ですが、印象派が活躍した十九世紀後半まで、さまざまな制約がありました。その頃、フランス人画家エドゥアル・マネは、生身の女性の裸体「オランピア」を描いたのですが、その作品は醜く品位を欠いたとして大スキャンダルになったほどでした。しかし、今ではパリにあるオルセー美術館が誇る作品として世界中の人々を魅了しています。

人間の持つ「美」の表現は、時代により、地域によって違ってきます。外面的、内面的な人間の美をいかに表すかを追求してきた歴史を探っていくのは興味深いことです。

今回は、また違った観点からその続きを見ていきたいと思っています。
(中川真貴さん寄稿)

【中川真貴さんの主な略歴】

丹波市山南町生まれ。西洋美術史研究者。1993年からイタリア在住。同志社大学卒、フィラデルフィア芸術学院卒、フィレンツェ、パラッツォ・スピネッリ芸術修復学院卒。

中川真貴さん著書

『はじめてのルノワール』
『はじめてのモネ』（求龍堂）は図書館蔵書にあります。

参加者の感想

- ・ お話がとてもわかりやすく、知らなかったことをいろいろ知ることができて、絵に隠されたメッセージがわかりました。
- ・ コロナ禍で海外にも行けない中、旅した気分になりました。
- ・ 馴染みのある絵についてのエピソードがとても興味深く、全く絵がわからない私も楽しい時間が過ごせました。

- ・ ルネサンス時代の絵画を解説付きでたくさん鑑賞できて大変楽しかったです。



ミトとマトの少年時代

河合迪雄（ミト）さんが語る

・・・河合雅雄著『少年動物誌』のころ

昨年11月26

日、河合迪雄さんを招き、兄・雅雄さんと過ごした少年時代のお話を語っていただきました。

昭和10年頃の子どもの時代をつい昨日のように生き生きと話された。次々と思い出が湧き出てくるようで話は

尽きない。篠山の豊かな自然の中でのびのびと遊んだ原風景がしっかりと心や体に染み付いているのだ。今の子どもたちには体験できない貴重な宝物だ。

『少年動物誌』にはその様子が手に取るように描かれているのでぜひ読んで欲しい。

参加者の感想

- ・ 迪雄先生のお話は語りの口調もとても滑らかでユーモアもあふれる楽しいお話でした。

- ・ 楽しいお話がお聞きできて、子どもと自然などに思いが深まりました。

した。

- ・ 私たちの若い頃には、迪雄先生のお宅に皆（篠山混声合唱団篠山労音）で入り浸り、楽しい青春を送れたのも迪雄先生をはじめ皆さんのお陰です。よくしゃべりよく歌い、とても充実した毎日でした。皆（6人ほどだったと思います）で軽井沢に行ったとき、犬山の雅雄先生のお宅に泊めていただいたのもいい思い出です。

【河合迪雄さんの略歴】

口大正15年、篠山に生まれる。東京歯科大学卒、歯科医となる。篠山に戻り、昭和28年、河合歯科医院を開業。口音楽活動にも尽力、篠山音楽協会会長を長く務め、地域での文化功労が認められ、昭和50年兵庫県第1回ともしびの賞を受賞。篠山で童謡唱歌を広める会を発足。現在も男声合唱、テニス、畑で野菜作りを楽しむ。



河合雅雄氏顕彰

検討委員会報告

〈検討委員会開催までの動き〉

昨年11月の図書館協議会に、河合雅雄先生の顕彰記念コーナーを中央図書館展示ホールの一 corner に設置する案が市から出されたが、委員からは否定的な意見が出された。友の会は市の提案を受けて、急遽市長と懇談をした。

懇談では、まず河合先生の考えを広めるソフト面の活動が大事ではないかと提案した。また小西隆紀県議会議員長（当時）とも懇談して意見を伺った。

【河合雅雄氏の理念をどのように継承し、後世に伝えていくかを考える検討委員会は1月～3月に3回開催された】

▼1回目は各委員が顕彰のあり方について発言するだけで時間が過ぎてしまった。

▼2回目以降は、ハード面での顕彰の設置場所に話がシフトしていった。委員からは篠山小学校内に併設されていた元幼稚園の場所はどうかという意見、「兵庫県立さ

やまの森公園」に「河合雅雄記念公園」と名称を入れたらどうかという意見が出た。

その中で市から、市民センター図書コーナー奥の雑誌・新聞コーナー、または、郷土資料コーナー付近に設置してはどうかと提案があった。

▼3回目には委員が市民センター図書コーナーの視察を行い、ほぼコーナーに設置の方向が決まったが、新聞コーナーか郷土資料コーナーで委員の意見が分かれ、結論を市に一任した。

友の会としては、利用者が新聞や雑誌を読むくつろぎの場でもあるブラウジングではなく、郷土資料がある場所を提案したが、市の意向もあり難しい状況だった。今後はソフト面の取り組みが望まれる。（中西文枝）

『少年動物誌』に学ぶ河合先生の理念を顕彰する取り組みを！

河合雅雄さんは丹波篠山の豊かな自然に育まれて成長した。その様子が『少年動物誌』（福音館書店）に生き生きと描かれている。

河合先生は「戸外」での遊びか

らしめだされた今の子どもたちの様子に心を痛め、「人類は、幸福を求めて高度な文明を追求してきた。そして物質的な欲望を満たすために、自然を犠牲にしている。このことです」と本著に記している。

河合先生の理念に基づき、今こそ「自然に遊ぶ」権利を子どもたちに取り戻す取り組みのモデルを丹波篠山市で展開して欲しい。

図書館協議会委員会報告

■11月8日、令和4年度第2回図書館協議会が開催されました

・来年度の図書館20周年の記念行事に向けての取り組みが発表された。
・令和5年度5月より市民センター図書コーナーが司書2名の配置となった。（従来は司書と職員の2名体制）

■子どもの読書活動推進連絡会が令和4年度は6月24日と2月1日に開かれた。今年度は令和6年度の第3次活動計画に向けての話合いが始まります。

学校、保育園、子ども園、ボランティア、図書館が一体になって取り組んでいく計画です。

4月29日（土）第21回総会を開催しました（会員数：47名 出席者16名、委任状21名）

- 令和4年度活動報告・会計報告、令和5年度活動計画案・予算案が承認されました。
- 河合雅雄先生追悼記念映像「自然に遊ぶ」DVDを視聴しました。

□ 総会に先立ち、館長の挨拶をいただきました。

図書館開館20周年記念行事の計画については、記念セシモニーの他に普段図書館を利用しない人にも足を運んでもらえるように様々な事業を企画するなどの報告がありました。また市史編さんの取り組みについて市制30周年となる令和10年度の刊行を目標に事業を実施する、等の報告がありました。





河合雅雄先生を最も身近で見続けてきた奥様
河合良子さんのお話会

「サル博士とともに65年」

日時 6月3日(土) 1時30分～

場所 中央図書館 視聴覚ホール



読書会

日時 偶数月 第2木曜日 10時～12時

場所 中央図書館 創作活動室

6月8日の課題図書

『サガレン』(梯 久美子著)

またはお薦めの本をご紹介します。

＜樺太／サハリン、旧名サガレン。北原白秋
やチェーホフ、宮沢賢治らも訪れた境界の
島。いったい何が彼らを惹きつけたのか？＞

・ 会報発行が50号となりました。
・ 相変わらず悪戦苦闘で予定の発
行が遅れてばかりです。30号ま
では冊子にして図書館に蔵書と
してありますのでぜひご覧くだ
さい。
・ 昨今の情報技術の発展は恐ろし
い速さで進みついていけません。
・ 子どもの成長の過程にITが入
り込みすぎているのがとても不
安です。雅雄先生も心を痛めてい
るのではないかと思います。

談話室

本の修理

毎月第1・第2・第4 金曜日

10時～12時

中央図書館 創作活動室

・参加希望の方は直接会場にお越しください。

・道具は用意しています。ご自分で使い慣れた道具を持参されても良いです。

★日程は中央図書館の掲示板でもお知らせします。

『宮沢賢治の心を読む』(I) を読む会

日時 7月4日(火) 10時～12時

(奇数月 第1火曜日に開催)

場所 市民センター

参加費 300円

「注文の多い料理店」の朗読と河合
雅雄先生の解説を読みあいます。

ぜひご参加ください。

*テキストは草山万兎(河合雅雄)著／著話屋
を購入していただくか、図書館蔵書
(4冊あり)をご利用ください。

詩の講座

「サイモン&ガーファングルの魅力に迫る」

講師 細見和之氏

日時 7月15日(土) 13時30分から

場所 中央図書館 視聴覚ホール

参加費 500円

デビュー曲「サウンド・オブ・サイレンス」
などの歌詞にも注目しつつ、彼らの懐かし
い歌声に耳を傾けて
いただきたいと思います。

